



鴻巣西中通信

学校だより No.1

学校教育目標 「心豊かで たくましい 西中生」
公式ホームページ <https://konishi-j-konosu.edumap.jp/>

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和5年4月10日

知的好奇心にあふれる授業を目指して

お子様のご入学そして進級おめでとうございます。令和5年度本校は、1年生136名が入学し、通常学級12学級、特別支援学級2学級、生徒411名でスタートしました。昭和55年開校から44年目を迎えます。さてここで、詩人 金子みすゞ の「ふしぎ」という題名の作品を紹介します。

ふしぎ

わたしはふしぎでたまらない、	黒い雲からふる雨が、	銀にひかっていることが。
わたしはふしぎでたまらない、	青いくわの葉をたべている、	かいこが白くなることが。
わたしはふしぎでたまらない、	だれもいじらぬ夕顔が、	ひとりではぱらりと開くのが。
わたしはふしぎでたまらない、	だれにきいてもわらって、	あたりまえだ、ということが。

私が中学校3年生の担任をしていた時、ある生徒からの「将来、科学者になりたいんですがどうしたらいいですか」という質問に窮し、理科の先生に相談したところ、「いままで当たり前だと思っていたことを、当たり前ではなく、本当かなと疑ってみる」という助言をいただきました。リンゴが落ちるのを見て、イギリスの物理学者ニュートンは万有引力の法則を発見したといひます。太陽が朝、東から昇り、夕方西へ沈むのではなく、地球が自転していると言ったポーランドの聖職者コペルニクスは当時人々の嘲笑の的となりました。とげの密集している植物からヒントを得て、マジックテープが開発されたり、植物が氷をはじく性質を研究して撥水の衣服やヨーグルトの蓋ができたりと、「当たり前？」のことに深く追究していくと新しい発見や発明に結びつきます。

小学校1年生ではひらがなを習いますが、「あ」はもとをたどると、漢字の「安」を速く書いた形(草書体)、カタカナの「イ」は、漢字の「伊」の左側の部分から取ったものと…こう考えると学習は楽しくなります。その漢字も、古代中国殷王朝のころ、占いを記録するために亀の甲や動物の骨に刻まれた「甲骨文字」が始めです。日本は古来中国の影響を受けていますが、柔軟性に富み、知識を知恵に換えることが得意です。「働」や「峠」は国字といって日本で作り出された漢字です。また、3種類もの文字を使う国は他にはありません。では、なぜなぞを出します。「『どすん』と音がしました。さてどこでしたでしょうか？」 答えは「寺」です。

国語の授業で「虫の名前」の由来を学習していたとき、「アメンボ」は何から？ という問いで、ある生徒がアメンボの足が水面に浮かんでいるところが雨のしずくのようなだから、と答えました。何と文学的な表現でしょう。教室内からも「ふーん」という称赞の声。でも、残念ながら、本当の答えは「飴」のような匂いがして、体も「棒」のようなだから、でした。しかし、まさに想像力は思考力です。

令和5年度、教職員一丸となって、「知育」・「徳育」・「体育」三つのバランスのとれた『生きる力』の育成を図るため、もうひと工夫加えた知的好奇心にあふれるような授業を目指します。

学校教育目標	心豊かで たくましい西中生
学校経営方針	豊かな学びで、鴻巣市の未来を託すことのできる生徒を育てる
めざす学校像	明るい教育環境で学力向上を目指す学校 生徒・生き生きと学べ、楽しく活動できる学校 保護者・子どもの成長が見え、安心して任せられる学校 教職員…『使命感・情熱』を具現化できる学校 地域・明るく開かれ、親しみのもてる学校
めざす生徒像	自信と誇り(西中プライド)をもち、生きる力を身に付けた生徒

(校長 橋本 浩)